

新米議員のひとりごと

常山 知子

東京大空襲で、親・兄弟6人を失った海老名香葉子さん（故林家三平さんの奥さん）の悲しい体験を聞きました。

小学校5年生だった香葉子さん「戦争は悲しいです」そう語り始めました。やさしいお母さんの思い出、朝早くから夜遅くまで家族のために働きずくめのお母さん。

「いつも笑顔でいるんだよ」と一人疎開する香葉子さんに、きれいな布でつくった防空頭巾を渡してくれました。

そして、家族を奪った3月10日、やさしい言葉からも戦争への憎しみが伝わってきます。「戦争はダメです」と。

しかし、いま憲法9条を変えて再び日本を戦争ができる国にしようと考えている人が、首相になりました。

憲法9条は、香葉子さんの家族のような尊い命の犠牲の上につくられたものです。

「憲法9条を守ろう」の声を大きくしていきたいものです。

(十) 三沢村と秩父事件

三沢村の新井勘五郎（農・四八歳、罰金四円）は「村内申合せ」により一月一日二百余名が下吉田椋神社に向ったと述べ、田幡市五郎（農三六歳・罰金四円）は「賊」に加わった人数は

皆野町の秩父事件⑬

「反町嘉平・女部田梅吉他村内二百有余人」と言っています（農民裁判文書）。ところが「暴徒人員」（大宮郷・熊谷の両裁判所で同年十二月三〇日までに処断を受けた人数）は一三人、

「農民裁判文書」に名前が見えるのは二十九人。その他の資料で参加を確認できる者を加えると計三六人のみです（飯島積「三沢村の秩父事件と女部田梅吉」は四三人）。三沢村の一八八四年の戸数は二八九戸、人口は一四五五人ですから参加人員／戸数は約一二％です。長

野県の東馬流で困民軍と官兵との戦闘があった一日前の一月八日、四人の警察官が三沢に入り「男はすべて家の中に居ろ、居ない者は暴徒と看做す」という「暴徒狩り」があり、このとき「自由連」三人が拘引された



(粥仁田峠)

『持田鹿之助日記』ということですが、二〇〇人と二十九人、ないし三六人の差は気になります。

三沢村戸長大浜栄作の息子慥作（農・二〇歳・科料一円）と筆生（助役）の関根新三郎（農・二三歳・科料一円）が一月三日曾根坂峠の備えに加わっていること、同日女部田梅吉・反町嘉平が福田儀作他村内数十名を率いて下小川陣地に行ったとの反町嘉平への「裁判言渡書」、田幡熊次郎（農・三三歳・罰金二円）が隣家田幡嘉一郎の暴徒からの「云継」に、村当局は全村参加の「申し合せ」をしたか、「暴徒」が村内を横行するに及んで「容認」せざるを得なくなったと考えられます。

一月一九日付大浜戸長の吉田県令宛

報告書は、三日、女部田梅吉らが村内を横行し刀剣類を奪った一件を伝えるのみで、自村民を庇う意図からか暴徒参加人員には触れていません。仮に「全村参加」の状態だったとすれば、一月三日から四日に機能した下小川橋陣地の備えとしての曾根坂峠、四日の粥仁田峠の戦闘に関係していたと想像されます。

参加人名にない家の曾孫の方が「家の曾祖父は秩父事件に参加した」と複数回聞いたことがあります。実際の参加者数は三、四〇人よりかなり多かったのではないのでしょうか。

知られている参加者名のうち、金屋の戦いに参加し重傷を負った鈴木綱五郎（農・二三歳・罰金五円）、粥仁田峠の戦いに参加した反町嘉平、山中谷まで進んだ女部田久次郎（農・五一歳・罰金二円五〇銭）、小角金五郎（農・四五歳・罰金二円）、より参加していること等を見ると鈴木仙吉（農・三一歳・罰金三円）、田幡弥十郎（農・三一



(粥仁田地蔵)

「消費税増税は
ストップできます」
「原発再稼働は
許せません」

日本共産党参議院議員

紙 智子

日本共産党埼玉県常任委員

伊藤 岳

紙 智子（かみ ともこ）



伊藤 岳（いとう かく）

歳・罰金三円）、最後の激戦地東馬流まで行った新井勘五郎、福島兼吉（農・二五歳・罰金七円）などは秩父事件終盤まで奮闘しました。秩父事件前半の主役は上・下吉田村および石間村の人々でしたが、その終盤は下日野沢村・金尾村・風布村の幾人もが主役になったと同様三沢村の人たちが活躍したことは「三沢村の秩父事件」にとつて特筆すべきことです。